

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年3月31日

事業所名 はつかぜ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	34%	66%	お子様の特徴により転倒やけがなどを回避できるよう支援スペースの細かな環境整備に努めている。	移転を検討中で出来る限り良い環境で支援できるようにしていきたいと思っている。お子様の特徴、利用人数が7人になる場合など、もう少し広いスペースが必要だと感じている。
	2	職員の配置数は適切である	57%	43%	重症児デイサービスの事業所で、基準より多い職員配置を行い可能な範囲でマンツーマン支援を行っている。	年度末にかけ退職による人員減があり現在確保のために募集を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	34%	66%	クッション性良いマットを敷きつめている。また、リラクスケアを使用し重症心身障がい児が長時間でも過ごしやすい環境に努めている。	エントランスの4段の階段はスロープを利用していること、福祉用トイレがない、フロア内に低い段差があることが課題である。根本的な解決には移転が必要で検討を続けている
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	全スタッフで業務改善など話し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年事業所評価は行っており結果はホームページ上に公表している。また、6ヶ月ごとのモニタリングは面談または電話で行いその際、保護者の意向など伺っている。また、送迎の際にも相談など行うことも多い。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	毎年事業所評価、保護者評価を行い、検討した結果をホームページ上に公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	57%	43%	現在外部評価は受けていない。重要事項説明書に明記している。	必要であれば実施する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	事業所内研修を6回/年実施している。様々な研修を行っている。また、外部研修や研究会等にも参加している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	モニタリングは6ヶ月ごとに実施しニーズの把握に努めている。可能な限りで面談で行っているが難しい場合は電話でのモニタリングを行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	89%	11%	標準化された重症心身障がい児を対象とするアセスメントツールがなく事業所独自の物を使用している。	重症心身障がい児に合ったアセスメントツールがあれば使用したい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	毎月行っているスタッフ会議では2ヵ月先のプログラムを立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	月間の導入プログラムと週間プログラムを提供している。導入プログラムは幼児向けとなり児童発達支援では全員に利用日に行っている。週間プログラムは経験になるような様々なプログラムを提供している。季節を感じたり、知育的要素も取り入れることもある。	コロナ感染症5類移行に伴い月1回のイベント(音楽コンサートや遠足など)プログラムを再開した。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	支援時間に合わせ個別、集団プログラムを提供できるようにしている。5月以降月1回のイベントプログラムを再開、収穫体験も実施できた。	コロナ感染症5類移行に伴い月1回のイベント(音楽コンサートや遠足など)プログラムを再開した。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団での活動は毎日のプログラムで実践している。個別の活動は支援計画に立案し随時実践している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日昼礼を行い、前日の申し送りやその日の支援について話し合っている。	送迎に出るスタッフもいるため業務日誌に記載する。また口頭での引継ぎを行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	個人の支援記録、業務日誌に記載し情報共有を行っている。	支援終了と共に送迎に出るスタッフが多く終了後の振り返りが難しい。記録に残す事(個人支援記録や業務日誌、社内メール)を徹底し昼礼で申し送りを行っている。また、スタッフ会議で情報共有、検討を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	日々の支援記録は個人記録に記載し、会議での利用者情報の共有に生かしている。また、支援計画見直しにも活用している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	全利用者に6か月ごとのモニタリングと支援計画の見直しを行っている。モニタリング前には全スタッフで見直し検討を行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	ガイドラインにあるすべての活動を実施している。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	学校のホームページから確認し共有している。重ねて保護者からも配布プリントのコピーを頂く機会も多くダブルチェック出来ている。体調面の変化などは送迎の際に情報共有できている。	スケジュールに関してはあまり問題はない。急な早退など送迎までに保護者の連絡が間に合わないケースはあった。個別支援に関しては情報共有出来ているとは言えない。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	89%	11%	医療的ケアがある場合はすべて指示書への記載をお願いしている。病院で行われるカンファレンスには積極的に参加している。ICTツールを通して連携出来るケースや嘱託医に相談、アドバイスを頂くこともある。	保護者が間に入るケースがほとんどである。直接主治医と連絡、相談できる機会は少なく、連携できる体制構築が望まれる。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	88%	12%	保育所等訪問支援を通して支援しているケースが数件ある。また、支援会議が開かれる時は必ず出席している。就学前の施設への訪問も受け入れている。関係機関から情報共有を求められることはあまりない。	左記関係機関から情報共有を求められることはあまりないが求められれば連携して行きたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	89%	11%	保育所等訪問支援を通して支援しているケースが数件ある。また、支援会議が開かれる時は必ず出席している。学校等から情報共有を求められることはあまりない。	学校等から情報共有を求められることはあまりないが求められれば連携して行きたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	89%	11%	カンファレンスなど積極的に参加し、他事業所やセンターとの連携を図っている。母を通して訓練見学の予約をしたり助言をもらっている。	数年、コロナ渦にあり研修の機会はなかったが、今後は以前のように研修に参加していく。

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%	保護者のニーズがあれば検討するが感染予防、体調管理の面から難しい。	今後も行う予定はない。重症心身障がい児が対象であり体調管理、感染予防の観点から必要性を感じない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	当事業所相談支援員、医療的ケアコーディネーターが自立支援協議会(権利擁護部会、相談支援部会)に参加し報告している。また、管理者は通所事業所連絡会に参加している。	事業形態など新しいスタッフへのオリエンテーションをしっかりと行う。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	送迎の際、その日の支援の様子を伝えたり、連絡帳に支援内容などを記入している。また、モニタリングでは保護者と一緒に課題について話し合っている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	体調面やケア内容、方法、福祉制度など様々な情報を伝えている。また、相談やアドバイスを行うこともある。	勤務形態から保護者対応する機会が少ないスタッフがいる。支援した対応内容などの報告は行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	送迎の際に相談を受けアドバイスすることも少なくない。各モニタリングの際は対面または電話で様々な相談を受けることがある。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	年2回の保護者会を実施している。その際、保護者のニーズに合わせ講演を企画することもある。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	支援内容以外でも気付いたことは何でも伝えて頂きたいことを日々お伝えしている。細かな要望もしっかり受け止めたいと思っている。	マニュアルを見直しスタッフ間で共有した。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	ホームページ上にブログを公開しひと月ごとの活動報告、次月の活動予定、イベント情報などを掲載している。また、保護者へは連絡帳で更新情報を伝えている。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	取り扱いについて同意書で確認している。	常に細心の注意を払い取り組んでいく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	日々の支援は利用者の意思を感じ、寄り添う支援を心掛けている。保護者とはモニタリングなど十分な時間をかけ意思の疎通を図っている。現在、配慮が必要なケースはない。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	75%	25%	再開したイベントでは事業所や地域センターでコンサートなどのイベントを行っている。また、地域ボランティアの協力で畑で収穫体験を行った。	子どもたちの経験を積む意味でも引き続き様々なイベントを継続していく。
非	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	各種マニュアルは作成し契約時に保護者に配布している。また、数年ごとの改訂を行っている。	緊急時マニュアルは誰もが対応できるよう充実させた。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	年に一度避難訓練や災害訓練を行っている。今年も消防署に来所してもらい総評を頂いた。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待防止委員会を設置し定期的な日々の支援の振り返りや研修を行っている。	

常時等の対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	身体拘束に関しては年度初めに同意書を交わし支援計画にも記載している。身体拘束適正委員会を設置し定期的に日々の支援の振り返りや研修を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	89%	11%	現在は指示が必要なアレルギーのケースはない。	個人のアレルギーについては把握している。必要であれば指示書に従って対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットはスタッフから積極的に報告されている。毎月の会議で報告し対応策、改善策など検討している。また、年度末には分析を行っている。	